

アメリカ短期看護研修を終えて

鳴海クリニック 鬼頭 成美

「最先端の医療現場をみてみたい」という思いを以前から抱いていたところ、職場から今回の研修の話があり、参加させていただくこととなった。研修を終え日本との医療制度の違いや、現在のアメリカの看護学生がどのような環境で看護教育を受けているかを知ることができ自分自身の見聞がかなり広まったことと思う。

アメリカの保険制度についての講義で日本と比べアメリカの医療費は高く、保険等もまだ模索段階という説明があった。アメリカの広大な面積を考えると全ての州で制度を統一するのは難しいのではないかと感じた。アメリカでは低所得者向けに運営されているメディケイドという制度はあるが、一般的な医療保険は民間で運営されており、保険によってかかる病院や使用できる薬が違っていたりすることを知り驚いた。今回の研修の中で、日本の病院との違いに驚き、感動する場面がいくつもあった。私たちが見学させていただいた大学・病院・老人ホームなどの施設はいずれも設備が整っているところであり、貧富の差が激しい国であるアメリカで、これらはアメリカ国内でも限られた人々だけが利用できる病院や施設であり、皆が利用できているわけではないのだろうと思った。日本と違い、誰もが気軽に医療を受けられる環境ではないため、医療の水準に大きく差があるのではないかと感じた。研修の中で低所得者が利用する病院や施設なども見学することができれば、アメリカの医療の実際をもっと深く知ることができたのではないかと思う。

研修先の病院でのアメリカの看護師は皆生き生きとしており、自分が看護師であるということに誇りをもって働いていた。博士号や修士号を取るため働きながらオンラインで大学を受講するなど自己研鑽に努めている方が多く、業務も雑務等が分業化されており、看護師としての専門性が高い業務内容であった。日本の医療現場では、看護師は資格がなければできない業務よりも、誰でも出来るであろう雑務に費やす時間が多く、看護師としての自己肯定感が低くなっているように思えることが多くある。働き方改革がうたわれている今、日本の看護師も資格を更新制度にしたり、専門性の高い働き方が出来るように改革して欲しいと思う。

今回の研修に参加し、色んな地域の科の違う看護師とも関わる機会を持つことが出来、そちらでも色んな刺激を受けた。自分自身のこれからのライフプランやキャリアプランを見直すきっかけにもなった。今後も積極的に様々な研修に参加し、自分の見聞を広げ、看護観を深めていきたいと思う。